

ナメクジのほうがあたまがい  
いっていうことかな。

ぼくはこの本を読んで、か  
いからカタツムリになって、  
カタツムリからナメクジにな  
るので、しんかがわかりまし  
た。それに、ナメクジはから  
をすてちゃったけどすごいな  
あとおもいました。だって、  
ぼくだったらからをすてませ  
ん。だってからがあれば、て  
きやあつさ、さむさからかん  
たんにみをまもれるからです。  
こんどナメクジを見つけた  
ら、

「おまえたち、すごいなあ。こ  
んどからしおをかけたたりしな  
いからな。」  
と言ってやりたいです。

「ないた」を読んで

北小二年 神谷洸太



「ないた」というだいな見  
て、ぼくはかわいそうな悲し  
い話なのかと思った。ぼくは、  
お母さんにしかられてなく  
けんかして、くやしくてなく  
こともある。自分の思いどお  
りにならなくてなく時もある。  
でも、ぼくは、毎日なかなか  
いよ。ころんでいたくてもな  
かないよ。少し強くなったの  
かな。

それから、「なく」のは、悲  
しい時だけじゃあないってわ  
かったよ。うれしい時、あん  
心した時にもなみだは出てく  
るよ。ぼくは、お姉ちゃんが  
こっせつした時に、心ばいで  
ふあんでないた。でも、大じ  
ようぶだとわかったら、ほっ  
としてなみだが出てきた。だ  
から、この本の中のぼくもほ  
くと同じ気もちだね。悲しい

気もちだけじゃなくて、やさ  
しい気もちやうれしい気もち  
があふれているね。

それから、なくのは人間だ  
けじゃないね。どうぶつもた  
くさん鳴いているよ。どうぶ  
つも気もちをつたえるために  
鳴いているのかな。ぼくには  
ひとり言を言っているように  
しか聞こえないけれど、どう  
ぶつにとっては、大切なこと  
ばなんだね。こんど、鳴き声  
を聞いたら、何を話している  
のか考えてみよう。おもしろ  
そうだね。

赤ちゃんは、たくさんない  
て気もちをつたえる。ぼくは、  
ちよつとだけなく。でも、ほ  
くはお父さんのないていると  
ころを見たことがないよ。大  
人は、どうしてなかないのか  
な。なきたいことがあっても、  
がまんしているみたい。

ぼくは自分の気もちをなみ  
だでつたえる。お母さんには、  
「がまんすることをおぼえなさ  
い。」  
っていつも言われるけれど、  
このままでいたいような気も  
する。がまんすること、ぼく  
にもできるよになるかな。  
できることからがんばってみ  
よう。

戦争がなくなるというな

南小三年 池本夢実



本の表紙でにっこりとVサ  
インしているモハマド君。彼  
がイラクから日本に来て、戦  
争で傷ついた目の手術をした  
ことはテレビで見えて知ってい  
た。その時は、目が治ってイ  
ラクに帰り、幸せにくらすん  
だろうなと思った。でも本を  
読んで、あの笑顔からは想像  
できないようなひどいことを  
イラクで体験してきた少年だ  
とわかり、大きく心を動かさ  
れた。

モハマド君の国、イラクは  
ずっと前から戦争が続き、今  
も銃げき戦や自爆テロにま  
きこまれて多くの人が死んで  
いる。自分の命を落としても  
人を殺したいなんて、そんな  
はげしいくしみがこの世に  
あることを初めて知った。モ  
ハマド君も家に銃弾をうちこ